

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和7年度病害虫発生予察技術情報第9号を発表したので送付します。

令和7年度病害虫発生予察技術情報第9号

さとうきび新植夏植えにおけるメイチュウ類の防除対策について

メイチュウ類食害による芯枯れ茎の発生は茎数減少や生育遅延に繋がり、その後の株出し栽培の収量にも大きな影響を与えます。特に夏植えは栽培期間が長く影響も大きくなります。植え付け時から防除を徹底し原料茎数の確保につとめましょう。

1 発生生態および被害

(1) カンシャシンクイハマキ

- a 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられる。ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす(図1)。老熟幼虫の体長は22mm 程度で体色は淡黄色を帯びる(図2)。
- b 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(2) イネヨトウ

- a 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられる。ふ化幼虫は集団で葉鞘内部を食害し3～4齢になると他の茎に分散、葉鞘の外側から孔を開けて食入し、生長点を加害して芯枯れを起こす(図1)。老熟幼虫の体長は30～40mm で体色は薄紫～ピンク色を帯びる(図3)。
- b 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集团的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れ(図4)を起こすこともある。

2 防除対策および注意すべき事項

(1) 植え付け時

- a 全茎苗は剥葉し、メイチュウ類の加害芽子のある苗は使用しない。
- b 土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する(図5)。

(2) 生育初期

- a ほ場および周辺の除草を徹底する。
- b 発芽揃期から有効分げつ期の芯枯れ防止のため、食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- c 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用し覆土する。
- d 茎葉への水和剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。MEP 単独成分の剤は感受性低下の報告があるため、他の剤を中心に散布する。
- e 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- f 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。
- g 薬剤散布の際には飛散(ドリフト)防止に努める。



図1 芯枯れ茎



図2 カンシャシンクイハマキ幼虫



図3 イネヨトウ幼虫



図4 イネヨトウによる被害（坪枯れ）



図5 粒剤散布後に覆土する

